

野島康三と斎藤与里  
—美を掴む手、美を興す眼

とき・11/1(土)～1/18(日)

ところ・2階展示室

内容・野島康三(1889-1964)は浦和に生まれ、明治末期から大正期にかけて、絵画の影響を色濃く受けた写真作品を作りました。後には新興写真の動向に身を置き、「光画」や国画会写真部などに発表しました。加須出身の斎藤与里(1885-1959)は、京都で洋画を学んだち渡仏。帰国後は西洋の新しい芸術思潮を広めながら、次第に南画等の影響を受け、晩年には故郷の加須に取材した伸びやかな画風を追究しました。この展覧会では、画廊経営者やコレクター、あるいは評論家や教育者として同時代の美術を支えたことでも知られるそれぞれの作家の足跡を辿るとともに、大正期における二人の交流にも着目しながら、関連作家の作品や資料を交え、両者が美術に注いだ眼差しにも迫ります。

観覧料・一般1400円(1120円)、大高生1120円(900円)  
※( )内は20名以上の団体料金  
※中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料  
※企画展観覧券(ぐるっとバスを除く)をお持ちの方は、併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。

## 《関連イベント》

○「深掘り！スライドトーク：兎屋画堂とその周辺」

2名の担当学芸員による、展覧会の内容をさらに深掘りするレクチャーです。

とき・1月4日(日)15:00～16:30(開場は14:30)

ところ・2階講堂／定員・80名(当日先着順)／費用・無料

## コレクションの舞台裏

一光をあてる、掘りおこす。収蔵品をめぐる7つの試み

とき・2/7(土)～5/10(日)

※会期中、一部作品の展示替えがあります。

前期：3/29(日)まで、後期：3/31(火)から

ところ・2階展示室

内容・1982年に開館した埼玉県立近代美術館は、継続的な収集活動により、現在4,000点以上の作品を収蔵しています。この展覧会では、その中から学芸部スタッフが各々の視点で作品を選び、リサーチの成果をもとに展示します。

7つの独立したテーマを設け、コレクションを掘り下げていく、短編小説のアンソロジーのような展覧会です。美術館の主要な仕事のひとつである「収蔵作品の調査研究」を通じて、作品や資料のさらなる解明を試み、コレクションの新たな見方や、通常はなかなかご覧いただけない側面をご紹介します。

観覧料・一般1000円(800円)、大高生800円(640円)

※( )内は20名以上の団体料金

※中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料

※企画展観覧券(ぐるっとバスを除く)をお持ちの方は、併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。

## 《関連イベント》

○講演会

講師・山本由梨(近代日本美術研究者)

とき・3/7(土)15:00～16:30(開場は14:30)

ところ・2階講堂／定員・80名(当日先着順)／費用・無料

○アーティスト・トーク

出演・奥山民枝(本展出品作家)／聞き手：当館学芸員

とき・3/15(日)15:00～16:00(開場は14:30)

ところ・2階講堂／定員・80名(当日先着順)／費用・無料

○ミュージアム・レクチャー

講師・相澤邦彦(ヤマト運輸(美術)スペシャルアドバイザー／コンサヴァター)

とき・3/22(日)15:00～16:30(開場は14:30)

ところ・2階講堂／定員・80名(当日先着順)／費用・無料

その他、学芸部担当スタッフのリレー形式によるギャラリートーク等を開催予定です。詳細は、当館ホームページ等でお知らせします。

## ミュージアム・シアター

没後25年 勅使河原宏—美術、文学、テクノロジー

内容・いけばな草月流の第三代家元として知られ、陶芸、舞台美術、映画監督などジャンルを越境して活躍した芸術家・勅使河原宏。その没後25年の節目に合わせて、勅使河原が手がけた映画作品の上映を行います。小説家・安部公房との協働、磯崎新や三木富雄らによる美術の導入、1970年の大阪万博における4面マルチ・スクリーンを用いた作品上映など、斬新かつ画期的な取り組みを行なった勅使河原の姿勢を、現在の視点から見つめ直します。

とき・2/14(土)10:30～[A]13:15～[B]16:00～[C]

2/15(日)11:00～[B]14:20～[C]

ところ・2階講堂／費用・無料

定員・80名(当日先着順、各回入替制)

上映作品・[A]『砂の女』(1964)、[B]『他人の顔』(1966)、

[C]『1日240時間』(1970)

※上映スケジュール等の詳細は、当館ホームページをご覧ください。

講演会・15日の最終上映終了後、友田義行氏(甲南大学教授)をお招きし、1970年の大阪万博のために制作された短編映画「1日240時間」を中心に、勅使河原宏監督作品についてご講演いただきます。[80分程度]

MOMASコレクション 2025.12.6 - 2026.3.1

## MOMAS のゆるい絵・素朴な絵

企画展「野島康三と斎藤与里」(～1/18まで)で取り上げた加須出身の洋画家・斎藤与里の画業において、特に興味深いのは、晩年の与里の数多くの作品が、子供の描いた絵を彷彿とさせることです。明治時代にフランスへ留学し、その後も最新の西洋美術の動向を学び取り入れた与里が至った絵画表現は、絵の技法や形式を内にひそめ、あたたかな色彩による柔らかな雰囲気を醸し出すものでした。企画展最後の章で展示している『柿』の、童話のような優しい色調とほのぼのとした作風には、なんども素朴な趣があります。

美術における「素朴」と言えば、日本美術史家・矢島新氏の著作『日本の素朴絵』(2011年)をご存じの方も多いかもしれません。日本美術に脈々と流れる、微笑ましく、時に可笑しい表現が見られる絵を「素朴絵」と名付けて、絵巻物や禅画など、中近世の美術に見出せる素朴絵を数多く取り上げています。それでは、近代以降の「素朴絵」を選ぶなら…？ 脱力するような軽妙な表現を「ゆるい」、童画のような簡潔でのびやかな表現を「素朴」な絵と言い表し、今回のMOMASコレクションでは、当館の「ゆるい絵・素朴な絵」を紹介します。

先にご紹介した与里は、『兎』のような軽やかな表現の日本画も描いています。同じく墨と淡彩で描いた『山水』では、山の景色に画賀が添えられており、南画の形式そのものです。日本では、画家の内面性や精神性を重視する表現主義と、江戸時代に日本で成立了南画に共通性を見出し、明治時代末頃から、南画の要素を取り入れた絵画を描く作家が増えました。洋画家の森田恒友は、欧州滞在後、大正から昭和の時代にかけて日本の風景を墨と淡彩で描いています。軽やかな墨線と淡い色使いで表現された風景は、詩を感じさせます。そして、風景に溶け込むように小さく描かれた人物は独特な表情で、不思議な魅力を感じられます。

日本画家が描いた素朴な絵を探すと、大林千萬樹の、平明な人物表現と明るい色彩を特徴とする『編笠茶屋』が挙げられます。まさに中近世の絵巻物や絵草紙に出てきそうな絵画です。千萬樹は情趣のある美人画を得意とした一方で、こうした素朴な江戸風俗画も多数描きました。

MOMASのゆるい絵・素朴な絵は、それぞれ思わず微笑みながら、肩肘を張らずに楽しむことのできる絵画です。しかし、描線や構図、色彩、余白の取り方は、やはり絵の修練を積み、独自の表現を獲得しようと模索した画家にしか出すことの出来ない、絶妙なものです。それぞれの作家がどのような試行錯誤を経て、ゆるい、素朴な表現に至ったのか、ぜひ想像しながらお楽しみください。(K.M.)

斎藤与里《兎》  
制作年不詳、彩色・紙

斎藤与里《山水》制作年不詳、彩色・紙

## MOMASコレクション(収蔵品展)

ところ・1階展示室

観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)

※( )内は20名以上の団体料金

※中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料

とき・12/6(土)～3/1(日)

※会期中、一部作品の展示替えがあります。

前期：1/25(日)まで、後期：1/27(火)から

## ◇セレクション

一大正から昭和へ

大正期を中心とする日本近代美術の動向を、当時の作家たちに刺激を与えた西洋美術の作品を交えて紹介します。

## ◇MOMASのゆるい絵・素朴な絵

日本の近代絵画に見られる微笑ましく可笑しい、「ゆるい」表現をテーマにコレクションを紹介します。

## 《関連イベント》

## ○ファミリー鑑賞会

とき・2/18(水)11:00～12:00

内容・赤ちゃんや小さなお子様連れのご家族が展示を楽しめる鑑賞会です。

費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

## ○コレクション・トーク

内容・学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。

費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

①とき・12/20(土)15:00～15:30

担当学芸員・菊地真央

作品・熊谷守一《馬頭観音》1935-50年頃

②とき・1/10(土)15:00～15:30

担当学芸員・西尾真名

作品・牧野虎雄《晩き夏》1927年

③とき・2月21日(土)15:00～15:30

担当学芸員・鷗原悠

作品・林俊卿《西洋婦人》1923年

## とき・3/7(土)～5/31(日)

## ◇セレクション

シニャックほか

## ◇さいがんのたまもの

近年新たに美術館のコレクションに仲間入りした作品をご紹介します。

## ◇頭／体

美術を通して表現される肉体の神聖さや物質性、人間の理性と本能をテーマに、コレクションを紹介します。

## 《関連イベント》

## ○コレクション・トーク

内容・学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。

費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

※3月中に実施予定です。日程が決まり次第、当館ホームページ等でお知らせします。

アーティスト・プロジェクト #2.09 江頭誠  
夢見る薔薇～Dreaming Rose～

とき・2/7(土)～5/10(日)

## ところ・2階展示室D／観覧料・無料

内容・江頭誠(1986-)は戦後日本で普及した花柄の毛布を用いて、独自の立体作品や展示空間を創り出すアーティストです。古い家具や既製品を毛布で包み込むことで、有機的なフォルムを立ち上げるとともに、物や空間が持つ記憶をゆるやかに呼び起こしています。本展では新作を交えたインスタレーションを中心紹介します。

## 《関連イベント》

## ○ワークショップ

江頭さんと一緒に作品を制作します。制作物は3月中旬に館内で展示予定です。

とき・3月8日(日)13:30～15:00

講師・江頭誠／ところ・3階創作室／定員・15名／費用・無料

対象・埼玉県に在住または在学の小学3年生～中学生

申込受付・2月12日(木)から電子申請による事前申込制。応募者多数の場合は抽選。

主催・埼玉県立近代美術館、美術と街巡り・浦和実行委員会

## ○作家によるギャラリートーク

とき・2月8日(日)13:00～14:00

## ところ・2階展示室D／費用・無料

## ○担当学芸員によるギャラリートーク

とき・2月23日(月・祝)15:00～15:30

## ところ・2階展示室D／費用・無料

## 公募展 応募作品展示中

「みつめて、かんじて、たべてみて！一作品のみかた・味わいかた」

とき・11/1(土)～1/18(日)

ところ・1階吹き抜けまわり

※無料スペース

内容・総合グランプリをはじめとする受賞作品のほか、ご応募いただいた全73作品を展示しています。

江頭誠《恐竜》2023年  
(参考画像)江頭誠《恐竜》2023年  
(参考画像)</div